

“何かをし合う” 意味の筑後弁！

グッチョ

Guccho

〇〇し合えるまちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介する地域福祉マガジン

vol.07

「見守り」、「見張り」。どっち？



地域福祉の啓発

Community welfare enlightenment

久留米市が昨年度に作った「地域福祉啓発ポスター/チラシ」のメイン写真です。訴えたのは「周りの人に意識を向けよう」のメッセージ。しかし、ある大学教授から疑問を投げかけられました。

あ、カーテン、
今日も開いたね。

「見るだけ。それも確かな地域の力」

「気が掛ける」が増えると「安心」が増える

ひきこもり、ホームレス、ダブルケア、8050 問題、生きづらさを抱える人が増える今、苦しいときに手が届くような、誰もが安心して暮らせる社会であるためには何が必要なのでしょう。大きなことは「多くの人と協働して取り組むこと」だと思っています。自治会活動や町人、サロンなどへの参加、市民活動など関わりたい方は、中でも一歩簡単なのは「身近な人を気掛ける」ことです。浦田さんがカーテンを開く方とは、思いがけない場所ではんだんの浦田さんを見たとき、それを支える人がいます。誰か人を、知り合い、たまたまに掛ける、気配りや気配りなくみんなの気配りたら安心じゃないですか。

TEL 0942-30-9175 FAX 0942-30-9752

実際に行われている見守りを題材に制作。相談・支援機関につながらず、取り残される人を減らしたいという思いを込めました

「見るだけ」に絞って

カーテンが半分開いた窓際にたたずむ人。添えたキャッチコピーは「あ、カーテン今日も開いたね」。令和2年度に作った地域福祉の啓発ポスター・チラシです。ポスターは市内6000以上の事業所に、チラシは公共施設や関係機関、協力してくれる人たちに配りました。伝えたいことは一つ。「見るだけ。それも確かな地域の力」と思ってもらえることです。たまにはまじめな書き出しでしょ。

モデルは御年90歳の浦田二三夫さん。安武町で一人暮らしをしています。校区の地域食堂などにもよく顔を出し、人から何か

してもらったらお返しを欠かさない。軽妙なトークでユーモアにあふれている。近所ではマスコットの存在です。

出会は、昨年開催していたおしゃべりの場でした。そこで浦田さんの日課を知りました。「朝起きたらリビングのカーテンを半分開ける」。それをお向かいさんが見て、毎朝無事を確認します。

ポスターの企画はここから生まれまし
た。地域共生社会の実現で大切なことは
「住民同士の支え合い」です。しかし、

「地域活動を始める」と思うとハードルが高い。ならば「近所の人や状況に意識を向ける」だけならどうでしょう。例えば、通勤の時にチラ見してカーテンが開いていなかったら。浦田さんのトレードマークとなってるのは「ん。思わぬ場所でそのなんてん姿を見かけたら——」。

誰かが早く異変に気づけば、悩んでいる人が、そして命が救われるかもしれませ
ん。多くの人の意識の「小さな変化」こそ、支え合いが当たり前になる大きな一歩
だと思えます。

本当に暮らしやすくなるの？

やっとテーマにたどり着きました。先日、数十年にわたって地域福祉を研究している大学教授と話す機会がありました。ポスターを紹介すると、教授から質問を投げ



浦田さんは月一回開いていた場に毎回参加してくれました。生い立ちや地域での付き合いなどについて話しました



令和2年度に開催していた「はじける文化と地域roman（はじロマ会）」。romanを語り「本音」を出す大切さを感じた場でした

“気に掛ける”が増えると“安心”が増える

ひきこもり、ホームレス、ダブルケア、8050問題。生きづらさを抱える人が増える昨今。苦しいときに手が届くような、誰もが安心して暮らせる社会であるためには何が必要なのでしょう。

大切なことは「多くの人が地域や人と関わること」だと言われています。自治会活動やPTA、サロンなどへの参加、市民活動など関わり方は様々。中でも一番簡単な方法は“身近な人を気に掛ける”ことです。

浦田さんが朝カーテンを開けないとき、慰めがけない場所ではなんてん姿の浦田さんを見たとき、それを気にする人が居ます。隣の人を、知り合いを、ただ気に掛ける。見えない支え手がたくさん街だったら安心じゃないですか。

見守りは確かな地域との関わりです。

地域で感じた温かな関わりエピソードを紹介した特設ページ「地域福祉って何」はQRコードから



チラシ裏面に添えたメッセージ。苦しい人に手が届く社会になるために大切な多くの人の意識の変化

かけられました。「目を向ける人が増えると、本当に暮らしやすい街になるのか?」。「見守り」なのか「見張り」なのか。地域に意識を向けることで、困っている人が助かる瞬間はあるはず。一方で、目を向けられる立場からしたらどう感じるのか。教授はそれを言いたかったのでしよう。

僕は、意識を向ける人が増えてほしいと思います。しかもゆるやかに。ライフスタイルや価値観の多様化が進んだ結果、地域への無関心が助長され、人の絆を弱めてきたのではと思います。だからといって、昔のムラ社会のような「プライバシーが保たれないこともある」地域の姿は、今の私たちの暮らしになじむとは思えません。ならば「距離感はほどほど。でも気持ちはずつつく」くらい、地域の関係性があっても良いのではと思うのです。

そして教授は続けました。「関わりつていうのは程度もの。遠すぎは良くないけど、やりすぎも良くない。そういう議論のきっかけになれば、ポスターを作った意味がある」。皆さんはどう思いますか。

最後に皆さんにお願ひです。このチラシを置いてくれるお店や会社などを募集しています。支えグッチョなご連絡をお待ちしています。

(担当・フトシ)

■クロスワードで「地域福祉」

誰もが住みやすい街になるためには、大切な視点があります。そういえば言葉でクロスワードを作ってみました。市ホームページに掲載しているWEBコラム「みんなが活躍できる、みんなが活きる」の該当話にもヒントがあります。答えは、特設ページ「地域福祉って何」に掲載。

WEBコラムのQRコード

タテのカギ

1. 気に掛ける人が増え、それが地域への〇〇〇〇につながらる【第1話】
2. 産打ち、店物の良し悪し。
3. 〇〇〇〇〇〇だけ動くのではなく、飲食店にも協力を依頼【第2話】
4. 資料に住む、歯がすくとく、大きく丸い尾を持つ小型の動物。物をでんぶん質の物を育て作った、ねばりけのあるもの。物に貼るに使う。
5. 大気中の水蒸気が集まって小さな水滴となり、煙のように立ち昇るもの。
6. 立ち上がる形をしたもの、とくに木を平たく切ったもの。
7. 10.うすく平たい形をしたもの、よく包んでいる様子。【〇〇ふたつ】
8. 見分けがつかないほど、よく包んでいる様子。【〇〇ふたつ】
9. 英語で爪のこと。
10. 昔になるとツツシと呼ばれ食べられる植物。
11. 豚肉にワン粉をまぶして揚げたら【トン〇〇】
12. 筑後県で「かさぶた」のこと。

ヨコのカギ

1. 迷惑を避けて遠慮し合う風潮を超え、【〇〇〇〇ながら生活しない】【第5話】
2. 【地域ぐるみで意識を持たないと、守れない〇〇〇がある】
3. 【第2話】
4. 駅前で次のランナーに譲ずもの。
5. 土ほこり・ごみ・紙くずなど。
6. 手で持てるくらいサイズの小さいもの。
7. 振るつりがないのに、といううたと振ってしまうこと。
8. 病気が治るために、飲んだり噛んだりするもの。
9. オンライン公民館は【〇〇〇との関わり方に起こった革命】【第1話】
10. 【誰かと〇〇〇〇いという気持ちの裏が意外と多い】身元保証支援【第4話】



撮影の舞台裏。撮影に同行してくれたのは、はじろマ会の運営メンバーで浦田さんお気に入りの友人です

チラシの裏面にはクロスワードパズルも。少しでも楽しく気に掛けてほしいという思いから